

## 総合科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本学総合科目Ⅰ	日本学の方法と資料	2	小河原 義朗	前期 火曜日 1講時	
日本学総合科目Ⅱ	日本学の古典／原典を読む	2	小河原 義朗	後期 火曜日 1講時	
広域文化学総合科目Ⅰ	広域文化学研究法	2	土屋 育子	前期 水曜日 1講時	
広域文化学総合科目Ⅱ	広域文化学の諸問題	2	土屋 育子	後期 水曜日 1講時	
総合人間学総合科目Ⅰ	感情の総合人間学	2	足達 薫	前期 金曜日 1講時	
総合人間学総合科目Ⅱ	研究発表と討議	2	足達 薫	後期 金曜日 1講時	

科目名：日本学総合科目 I / Japanese Studies (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12101, 科目ナンバリング：LAL-0AR503J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の方法と資料

2. Course Title (授業題目)：Materials and methods of Japanese studies

3. 授業の目的と概要：日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand Japanese studies from many angles and have a perspective on Japanese studies. First, research methods from various fields of Japanese studies are presented. Next, you will be presented with research materials on Japanese studies. This class is an omnibus lecture series.

5. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。

(2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) explain the viewpoints of Japanese studies from multiple perspectives and comprehensively,

(2) explain the outline of the research materials of Japanese studies.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回 ガイダンス・日本学の過去・現在・未来① (高橋章則)

第2回 日本学の過去・現在・未来② (高橋章則)

第3回 海外の日本学事情 (クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー)

第4回 日本思想史学の方法 (片岡龍)

第5回 日本思想史学の原典 (引野亨輔)

第6回 日本語学の方法、他言語との対照 (甲田直美)

第7回 日本語学の原典 (大木一夫)

第8回 日本語教育学の方法① (小河原義朗)

第9回 日本語教育学の方法② (島崎薫)

第10回 日本文学の方法 (佐倉由泰)

第11回 日本文学の原典 (佐倉由泰)

第12回 日本史学の方法 (堀裕)

第13回 日本史学の資料 (籠橋俊光)

第14回 考古学の方法と資料 (鹿又喜隆)

第15回 文献史学と考古学 (柳原敏昭)

8. 成績評価方法：

レポート 80%

参加態度 20%

9. 教科書および参考書：

テキストは用いない。必要資料は印刷して配布する。

参考書・参考資料は講義内で随時提示する。

10. 授業時間外学習：各回の講義内容を整理し、自分自身の研究テーマとの関連性、関係性について検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本学総合科目Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Course)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22101, 科目ナンバリング：LAL-0AR504J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の古典／原典を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading classical Japanese studies
3. 授業の目的と概要：日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve concepts and methods of Japanese studies by reading classical materials related to Japanese studies and the source materials that serve as research materials for Japanese studies.
5. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。  
(2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students;  
(1) explain the characteristics of the classics / original texts of Japanese studies,  
(2) to be able to accurately read the classics / original texts of Japanese studies and discuss their contents.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
第1回：日本学の古典／原典総論  
第2回：日本学テキスト精読の方法と意義  
第3回：日本学テキストを読むための道具  
第4回：発表の方法  
第5回：日本学テキスト精読(1)  
第6回：日本学テキスト精読(2)  
第7回：日本学テキスト精読(3)  
第8回：日本学テキスト精読(4)  
第9回：日本学テキスト精読(5)  
第10回：日本学テキスト精読(6)  
第11回：日本学テキスト精読(7)  
第12回：日本学テキスト精読(8)  
第13回：日本学テキスト精読(9)  
第14回：日本学テキスト精読(10)  
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：  
レポート 60%  
参加態度 40%
9. 教科書および参考書：  
テキストはコピーして配布する。  
参考書  
『日本国語大辞典 第二版』小学館 2000-2002  
諸橋轍次『大漢和辞典 修訂版』大修館書店 1989-1009  
中田祝夫編『古語大辞典』小学館 1983  
その他、参考書は授業内で随時提示する。
10. 授業時間外学習：(1) 当該時に扱うテキスト範囲について十分予習して授業にのぞむこと。  
(2) 各自の担当範囲に関して、十分な調査を行い、発表にのぞむこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：広域文化学総合科目 I / Global Humanities (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LM13102, 科目ナンバリング：LAL-0AR505J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学研究法
2. Course Title (授業題目) : Research Methods on Global Humanities
3. 授業の目的と概要：広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教などのいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。この授業では広域文化学研究のために必要な基礎知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In Global Humanities department, what aspects of culture, history, language, religion, etc., will we focus on, and from what perspective will we analyze and consider them? The purpose of this course is to learn the basic knowledge and techniques necessary for students of Global Humanities, and to cultivate empathy and adaptability to different cultures through them.
5. 学習の到達目標：広域文化学の基礎的な知識と視点を身に付け、学際的視点から文化と社会をめぐる諸問題を考察することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain basic knowledge and perspectives on Global Humanities, and to consider issues related to culture and society from an interdisciplinary perspective.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
広域文化学の方法について、オムニバス形式で講義をおこなう。毎回の講義題目（担当教員）は以下の通り。
  1. イントロダクション（土屋育子）
  2. 文化人類学研究法（川口幸大）
  3. 宗教学研究法（木村敏明）
  4. アクションリサーチ研究法（谷山洋三）
  5. インド文献学研究法（桜井宗信）
  6. 中国古代中世思想研究法（齋藤智寛）
  7. 中国近世近代思想研究法（三浦秀一）
  8. 中国古代中世文学研究法（矢田尚子）
  9. 中国近世近代文学研究法（土屋育子）
  10. 中国近世史研究法（大野晃嗣）
  11. 近現代文学研究法（大貫隆史）
  12. 文法研究法（島越郎）
  13. ドイツ語学研究法（嶋崎啓）
  14. 現代史研究法（今井勉）
  15. 歴史史料研究法（有光秀行）
8. 成績評価方法：  
授業後に提出する 10 回のミニレポート(100%)
9. 教科書および参考書：  
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業内容に関連した調査研究をおこないミニレポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：広域文化学総合科目Ⅱ／ Global Humanities (Comprehensive Course)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LM23102, 科目ナンバリング：LAL-0AR506J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues in Global Humanities (Seminar)

3. 授業の目的と概要：本授業では広域文化学における諸問題について、受講者による発表と討論を通して学ぶ。自分の研究対象地域や研究方法とは異なった研究テーマをもった学生や教員と討論を行うことを通し、自らの研究の意義や広域文化学的な視点を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will learn about various issues in global humanities through presentations and discussions by students.

5. 学習の到達目標：広域文化学をめぐる諸問題について多角的に考察することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to consider issues on global humanities from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回～第5回

域際文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第6回～第10回

東洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第11回～第15回

西洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

8. 成績評価方法：

発表、討論への参加状況による。

9. 教科書および参考書：

参考書は授業中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：発表の準備。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：総合人間学総合科目 I / Integrated Human Sciences (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM15101, 科目ナンバリング：LAL-0AR507J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の総合人間学
2. Course Title (授業題目)：Integral studies in human feelings
3. 授業の目的と概要：総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目標としている。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn about human feelings through approaches of philosophy, art theory, social sciences, psychology and linguistics. This learning combines theoretical with empirical studies and ultimately aims to provide students with high capacities in dealing with actual issues in contemporary societies.
5. 学習の到達目標：人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be familiar with a variety of academic approaches to human feelings. To be able to consider human feelings from different angles.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この科目は「オンライン授業」を予定しています(2022 年 2 月現在：状況により変更あり)。  
Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。  
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
  
- オムニバス方式 (変更の可能性あり)
  - 1 感情の総合人間学——導入
  - 2 感情の哲学倫理的考察 (1)
  - 3 感情の哲学倫理的考察 (2)
  - 4 道徳にとって感情とは何か
  - 5 心理学における感情研究史
  - 6 感情の脳科学
  - 7 美術と感情 (1)
  - 8 美術と感情 (2)
  - 9 美術と感情 (3)
  - 10 感情の社会学 (1)
  - 11 感情の社会学 (2)
  - 12 集団間関係と感情の計量行動科学
  - 13 社会イメージと感情の計量行動科学
  - 14 言語が伝える感情
  - 15 感情の総合人間学——総括と展望
8. 成績評価方法：
  - (i) 毎回の授業で求めるミニッツペーパーの提出 60%。
  - (ii) ミニッツペーパーの内容評価 40%。
  - (iii) 上記(i)と(ii)を加算の上、総合的に評価する。詳細については初回のガイダンスで説明するため、必ず出席すること。
9. 教科書および参考書：  
授業中に指定する (プリント配布など)。
10. 授業時間外学習：授業の内容について復習し、ミニッツペーパーの提出に向けて学習する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし  
2022 年度の授業とりまとめ役は足達薫です。メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)

科目名：総合人間学総合科目Ⅱ／ Integrated Human Sciences (Comprehensive Course) II

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM25102, 科目ナンバリング：LAL-0AR508J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究発表と討議

2. Course Title (授業題目) : Academic Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers students opportunities to present their research projects and to discuss with students and faculty members of other disciplines. Students will broaden their perspectives and acquire interdisciplinary and integrative research attitudes through presentations and discussion in the course.

5. 学習の到達目標：(1) 総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討論を通じて、学際的な研究姿勢を養う。

(2) 学術的な報告や質疑応答、討議の仕方の基礎を身に付ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students will acquire interdisciplinary research attitudes through exposure to various disciplines and discussion from various perspectives.

(2) Students will acquire basic skills for academic presentations and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は「対面授業」を予定しています(2022年2月現在：状況により変更あり)。

この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を発信します。

1. オリエンテーション 全教員の参加により、科目 A・B のグループに分け授業の進め方について説明をおこない、発表分担を決定する。

2. 研究発表の方法 各科目教員 4 名の参加により、研究発表の方法についてそれぞれから説明をおこなう。

3. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

4. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

5. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

6. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

7. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

8. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

9. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

10. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

11. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

12. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

13. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

14. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

15. 総括 各科目教員 4 名の参加により、これまでの研究発表について総括する。

8. 成績評価方法：

出席 (50%)、発表内容 (50%)

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：各自の発表について事前に十分に準備をおこない、発表後は討議の内容を十分に検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

2022 年度の授業とりまとめ役は足達薫です。メールアドレスは kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp です。(●は@)